

まえがき

お金については、初心者だって本当のことを知りたいはずだ。しかも本当のことがシンプルで分かりやすい。そう思ったので、本書を書くことにしました。

個人にとってのお金のふやし方、資産運用の方法に関して数多くの書籍や雑誌の記事などがありますが、しばしば間違いや説明不足があるように思われます。たとえば、アメリカは確かに投資教育の先進国ですが、アメリカ型の投資教育には、運用商品を提供する側にとって好都合ではあるものの、よく考えるとおかしな内容がいくつもあります。よくあるアメリカの真似をした運用の入門書も同様です。たぶん、九〇年代を通じたアメリカの株式市場の好調が各種の不都合を結果的に隠していたのでしょう。また、率直に言って、運用商品の販売者側が提供する投資知識はどうしても売り手にとって好都合な内容に偏りがちです。運用についての過去の常識、あるいは金融機関による投資教育には、残念ながら明らかな誤りや不合理が少なくありません。

筆者はこれまで、ファンドマネジャーとしてファンド（投資信託）を運用したり、ファンドマネジャーを顧客とする仕事、あるいは大学の講義や書籍を通

じて運用についての知識や情報を提供する仕事をしてきました。個人の資産運用をプロの運用と比較すると、いくら考えても本質的な部分は同じであり、これを知らなければ損な立場に立つことが分かりました。しかし幸いにも、運用について知るべき考え方のエッセンスは、そう難しいものではありません。

本書は、一人一人の「個人」にとつて、ぜひとも知っておくべきだと思われる資産運用の「考え方」を、プロの知識も吟味した上でやさしく説明したものです。これまでの通念や、金融機関が提供する常識とは明らかに異なる内容も含まれていますが、一貫して「投資家の立場から」、お金をふやすために必要十分な考え方の基本を正直に書いてみました。商品や時事の説明ではなく、「考え方」の解説なので、一度理解しておくで読者の長い人生全般にわたって役に立つと思います。「人生自己責任の時代」にあつて、自由と自立の基礎になるものは何といてもお金です。

読者のみなさんが、お金の運用を楽しみながら、お金をふやし、かつ理不尽な損失を被らないために、類書にはない有効なヒントがいくつもあるのではないか、ひそかに自負する次第です。

二〇〇一年一〇月

山崎 元